



旧伯耆農業共済組合日野支所に作業所を開所

利用者の自立支援を 目指し開所

わかとり作業所日野分場（以下日野分場）は、身体や知的な障害のある方に自立と自己実現を支援するために開設された作業所で、利用者の方が自宅などから通って仕事をする所です。

場所は、旧伯耆農業共済組合日野支所（出雲街道根雨宿一番館前）の事務所を使い、4月10日に開所されました。

日野郡内で初めての 知的障害者授産施設

日野分場は、社会福祉法人・祥和会（景山峻吾理事長）が運営。西伯町に本所、大山

町（総合福祉センター内）と会見町（フラワーセンター内事務所）に分場があります。日野郡内から通う方がいるため「郡内に分場を開設してほしい」という家族会の強い要望で、日野町に郡内では初めての知的障害者授産施設（通所）が開設されました。

個性や心の温かさが 伝わってくる

利用者の定員は10人で、現在は利用者4人、サポーター（支援員）3人でスタート。商品などを作り販売しています。仕事内容は、利用者の自主性にまかせ、一人ひとりに合わせた内容になっています。商品は、ひと針ひと針、心を込めて作る刺し子巾着など



心を込めて作品を作り上げる



機織り機の使い方の指導を受ける



作業所には、かわいらしい作品がずらりと並ぶ

の手芸品をはじめ、はしセツト、プランターカバーなど木工品も作って販売しています。

また、^{はた}機織り機を使いコースターなどの織物も作っています。

出来上がった作品は、利用者の方々が心を込めて一つひとつついでいねいに手作りし、大量生産にはない個性や心の温かさが伝わってきます。

今後は、地域性を生かしながらたくさんの商品を作成、販売出来るよう取り組んでいきます。

地域に根ざした

日野分場を目指す

地域に受け入れられ、親しまれる分場を目指し、地域に



それぞれが自主性を持って仕事に取り組む

根ざしたさまざまな活動を計画。毎月1回、分場周辺地域を清掃するボランティア活動や積極的に町の催しに参加するようにしています。

5月10日には、チャレンジショップ出雲街道根雨宿一番館と初めての合同催し「根雨宿一番館&日野分場合同祭り」を開きました（詳しくは5ページで紹介いたします）。

手作り味噌など

商品の注文販売も

日野分場では、本所やほかの施設で作られた、納豆や無添加で国産原料を使った手作り味噌、こんにゃく、食パン、米、ケーキ、クッキーなどの食品やプランターカバーなどの木工品の注文販売もしています。